

令和5年（2023年）12月定例議会本会議（12月14日）

総務常任委員長報告（所管事務調査・他都市調査）

ただいま議題となっております行政部門別常任委員会の所管事務調査について、総務常任委員会における調査の経過と結果を報告します。

まず、委員会は、5月18日会議を開き、今年度の他都市調査の日程を決定し、続いて、6月14日会議を開き、調査テーマに関する協議を行いました。

次に、9月6日会議を開き、OTAデジタル×PiO（大田区デジタルプラットフォーム）についてを調査項目として東京都大田区、飛騨市ファンクラブとEdyの活用についてを調査項目として岐阜県飛騨市、ICT活用についてを調査項目として石川県金沢市を視察することを決定しました。

その後、9月22日、26日の2日間会議を開き、調査項目に関する本市の状況等について関係部局から説明を聴取し、質問を行いました。

このように調査項目に関する理解を深めた後、11月8日から10日までの3日間で視察を行いました。

また、これを受け、12月6日会議を開き、委員間で意見交換を行いました。

主な意見を申し上げますと、まず、OTAデジタル×P i O（大田区デジタルプラットフォーム）については、

- ・デジタル受発注プラットフォーム「プラッとものづくり」の取組は、1社では担うことができない仕事もデジタルにつなぐことによりグループで分担できることを学び、非常に参考になった。

という意見、

- ・本市にも技術力のある中小企業が数多く存在するため、大田区のような取組が本市で実現できれば、横須賀ブランドの工業製品の開発にも展開できるのではないかという印象を受けた。

といった意見がありました。

次に、飛騨市ファンクラブとE d yの活用については、

- ・本市には近い内容の取組として「横須賀開国WAON」があるが、飛騨市では、楽天E d yを活用したファンクラブ会員証の発行はファンづくりのコンテンツの一つにすぎず、ファンと直接関わりながら飛騨市を身近に感じてもらうための活動により注力し、結果的にふるさと納税寄付額の増加など、二次的な効果を生み出し

ている点が本市とは異なっていると感じた。

という意見、

- ・本市もアニメの聖地巡礼など特定のコンテンツを求めて来訪する層が多く、飛騨市ファンクラブのようなものは検討の余地があるのではないか。

という意見、

- ・本市も飛騨市のように、本市を好きになってくれた人が交流人口から関係人口になっていく形でファンを増やしていけるとよい。

という意見、

- ・人口減少が深刻な中、関係人口を増やすために、地域が必死になっている姿を感じた。楽天E d yとの連携だけでなく、地元信用組合とも連携し、電子地域通貨「さるぼぼコイン」など新たなものへと派生させ、様々な展開を地域ぐるみで途切れさせずにつなげていくことは非常に大切だと感じた。

といった意見がありました。

次に、ICT活用については、

- ・市長自らがデジタル戦略推進本部の本部長となりトップダウンで進めている点や町内会・自治会等のデジタル化も推進している点

が印象的だった。今後も他都市の先進事例を参考にするなど常にアンテナを張りながら本市のデジタル化を進める必要性を感じた。という意見、

- ・今後DX化が進むにつれて公務の中身も大きく変わると思われる中で、それをチェックする議会側にもかなりの知見が求められていると改めて感じた。

といった意見がありました。

以上のおり、委員から様々な意見があり、このたびの所管事務調査で得た知見は、今後委員がそれぞれの議会活動に活かしていくこととし、本調査を終了します。

以上で報告を終わります。